

できることから
はじめよう！
環境にいいこと
ひとつずつ



城陽エコパートナー通信 Vol.87

発行日：令和7年(2025年)10月24日 編集・発行：城陽環境パートナーシップ会議
会員数：269人(令和7年9月30日現在) (事務局)Tel(56)4061 Fax(56)3999

市内9保育園で令和7年度環境出前講座を実施しました！

文 小林 駿運営委員

■実施内容



今夏の講座の内容は、座学では「もったいない」をテーマに①日常生活を通して電気・水・モノや食べ物を大切にするお話と②なぜ「水」が冷やす力になるのか？とし、スライド上映をおこないました。

体験講座では「扇風機の風とミスト扇風機の風を送り、いかに水はものをよく冷やすかを体感実験で確認しました。

9園285人(保育士含む)講師は延べ14人と事務局で対応しました。



■感想

- ・今夏は体温を超える気温が続く猛暑でしたが、各園の先生や園児らは本講座を待ち焦がれているようで、座学のスライドをしっかりと見聞きして、講師の質問にも元気よく手を挙げて答えてくれました。
- ・ミスト体感実験では、「ああ！涼しい！」など、満足げな笑顔が見られ、私たちも元気をもらい、盛夏の中涼風をいただきました。
- ・7月14日の清心保育園には洛タイ新報、8月21日の今池保育園には、FMうじの取材・収録があり、城陽市内保育園の夏の風物詩となりました。成功裏の開催は、これまでに長く本講座を推進くださった故・芦原昇氏が見守ってくださったことに感謝します。

写真(上)：お話をきく子どもたち

写真(下)：ミスト体験する子どもたち

巨椋池排水機場等の見学に行きました。

文：大野 和宣会長

地球環境・循環部会では今年度の環境学習会のテーマに「水環境を知る」を取り上げました。私たちの住む城陽市の近くにも水に関わる施設が多くあります。今回は次の排水機場と浄水場を見学してきました。

1.「巨椋池排水機場」

地球環境の今日的テーマの一つはプラスチックによる海洋汚染です。水はあらゆるものを河川を伝って海に運びます。中でも海に着いたプラスチックは分解されずに目に見えないほど細くなり、魚や人間の体に取り込まれ長い間残留することで様々な悪影響を及ぼすことが懸念されています。河川の中継点でもある排水機場にはあらゆるものが流れてきますので、ゴミの実態を見ることができます。ゴミのほとんどはポイ捨てされたごみでした。



写真(上)：巨椋池排水機場で集積されたごみ
写真(右)：城陽市上下水道部 自然ろ過施設

2. 城陽市の水道「第3浄水場」

暮らしを支える水道料金には手頃さが求められます。それを支えるのが城陽市水道独自の浄化システムです。第3浄水場にある鉄バクテリア浄化による自然ろ過施設は薬剤に代ってコストの低い自然界にあるバクテリアが使われています。このアイデアは城陽市の職員が生み出したもので特許を取得しています。

水道水は法律で水質基準が厳格に定められていますが、浄水や配水システムなどの水道事業の運営は各自治体が独自に行っています。それだけに水道事業の安定した運用と持続には水を大切にする、無駄をなくすなど市民と行政が一体となった自助努力が求められます。水を通して今の環境を知り、学ぶ貴重な機会となりました。これからも社会を支える施設の見学を企画しますので多くの市民のみなさまの参加をお待ちしています。



京都☆いきものフェス！2025に参加しました！

文 中川 宗孝運営委員

9月27・28日の2日間、府立植物園を会場に開催された「きょうと☆いきものフェス！2025」に参加し、野生生物の保護や自然環境保全に携わるたくさんの団体がブース展示やワークショップ、活動報告に自然観察会の開催などで大いに盛りあがった一大イベントを堪能してきました。

城陽環境パートナーシップ会議のブースでは、城陽生き物ガイドブック最新版の「外来生物(2025)」を掲示資料に、関連資料をそろえて来場者に解説と質疑に応じて好評を博しました。

また、魚類のアドバイザーの林博之・府立 菟道高校教諭の協力を得て制作されたガイドブック・さかな編(2023)と共に、同校科学部の研究発表「宇治川におけるヌマチチブの寄生虫」もポスター掲示で華を添えています。

メイン企画では、「京都の寺社の森と生物多様性」と題した渡辺弘之・京大名誉教授による基調講演があり、鎮守の森の重要な役割と直面する問題を考える機会となりました。

また、研究発表や活動報告も口頭・ポスター併せて35題がエントリーし、我が城陽環境パートナーシップ会議も「外来生物と有害生物の現状と取り組み」を演題に、希少野生生物の保護に欠かせない外来生物駆除とスズメバチなど危険生物への対応を口頭で発表してきました。

来場者にガイドブック・外来生物編と関連資料の配布を行い、生態系を攪乱する有害生物の駆除も致し方ない現状をご理解いただけたことでしょう。

本来なら、カメ類の見分け方やめったに見られないヘビなどを持参し、スッポンや珍蛇・ジムグリなどのふれあいコーナーも取り入れて、子供たちに生きた教材で学んでもらう機会にしたいところでしたが、会場と季節などの諸事情で多くは望めませんでした。

また、他団体のブースやワークショップを見る時間的余裕も限られて残念でしたが、京都府における生き物に関する最大級のイベントで城陽環境パートナーシップ会議の活動成果を残せたことは今後の目標にもつながり有意義な体験となりました。

◎写真①

ポスター掲示とガイドブックなどの啓発資料を展示の城陽環境パートナーシップ会議の室内展示ブース。



(2)

◎写真②



展示ブースは、植物園会館 1F に 23 団体、野外テントと大芝生地テントがそれぞれ 30 と 21 団体。多目的室のワークショップなど 11 団体に様々な観察会主催者などを含めて計 100 団体にのぼり、両日で約 12,000 人の参加がありました。

◎写真③

活動報告では、2010 年度の「生き物ハンドブック」からガイドブック第 6 弾・外来生物編まで、啓発活動のアイテムとしての有効活用例を伝え、口頭発表を補う資料の配布を行いました。



◎写真④



こうした環境イベントでのデモンストレーションも、城陽環境パートナーシップ会議の盟友たちに支えられてのことと感謝し、共に活動できる人材を求めています。

「城陽水辺の生きものたち」が完成しました。

城陽の川や水田などで見られる20種類の生きものを「主な生息地」や「めずらしさ」を写真とイラストで紹介したクリアファイルです。

城陽市はもちろん南山城や野生生物研究の第一人者、中川宗孝委員との監修で20種類の生きものを選んでいきます。皆さんもどこかで見かけたものもあると思います。また、パートナーシップ会議が実施している「自然観察会」にご参加されれば、その生きものを見る機会もあると思います。

城陽市の水辺は、今池川、古川、青谷川などの河川や、水田や花き栽培などの農地があります。人も含めて「水」は生き物にとって欠くことができないもので、川辺とその周辺、水田などには、多くの生きものが互いに関わりながら生きています。

城陽市の水辺も近年変化してきました。「トノサマガエル」はかつてよく見られたのですが、いつの間にか城陽市では「めずらしい」になっています。一方で「ヌートリア」は、「よくみかける」生きものになっています。また「カヤネズミ」や「イシガメ」など京都府で希少となってきた生きものも城陽市で見ることができます。

紹介したものは、城陽の水辺の生きものたちのほんの一部ですが、今の城陽の自然環境を示すものでしょう。

裏面の「環境指標となる水生生物たち」は国土交通省の「川の生きものを調べよう」を参考にしています。

その中から城陽で観察ができる生きものを紹介しています。

水辺に生息する生きものは、水質によっても生息できるものが変化します。

例えば青谷川の中流より上で見られる「ゲンジボタルの幼虫」は「ややきれい」な水質環境でよく見られます。「きたない」環境では、幼虫が生きていけません。

一方、たくさんの幼虫が生息するにはエサとなるカワナナ(水生の巻貝)が十分に生息できる環境も必要です。そのためには「ややきれい」な環境が適しているということです。「とてもきたない」の指標生物「アメリカザリガニ」や「きれい」の指標生物「サワガニ」はよく知られていますが、指標生物の多くは、なじみのない生きものが多いと思います。あまり移動はせず河底などに生息し、環境の影響を受けやすいものが多いため、指標生物は目立たないことが多いようです。

興味のある方は国土交通省の「川の生きものを調べよう」で検索してください。きれいな写真やイラスト、詳しい説明、採集の方法や調べ方もHPで紹介されています。



川の生きものを調べよう

(国土交通省)



第24回

城陽市環境フォーラム

入場無料

2025年 **11月29日(土)**
11:00 開始 15:00 終了予定

文化パルク城陽 市民プラザ
京都府城陽市寺田今堀1番地

共催：城陽市／城陽環境パートナーシップ会議

テーマ **知ろう、学ぼう、伝えよう 身の回りのマイクロプラスチック**

出入り自由

環境について楽しく学ぼう

しもじ考え 語り合おう

共催 城陽市
城陽環境パートナーシップ会議

着物リメイクファッションショーやマイクロプラスチックについての講演会、ワークショップなど、今年も楽しいイベントが盛りだくさん♪
詳細は右の二次元コードよりご確認ください。
※市ホームページ 11/1 公開予定

ご来場でエコ・アクション・ポイントが貯まる！

ご来場いただいた方にはなんと **200ポイント**を付与します！



会員の皆さまへ！

エコパートナー通信(本通信)を電子版にしませんか？

城陽環境パートナーシップ会議が、年4回お届けしているこの「城陽エコパートナー通信」ですが、**ペーパレス化によるCO₂削減**の観点から、電子送付へのご協力をお願いしております！

●**会員通信の電子送付の申し込み方法について**

右の二次元コードを読み取り、専用フォームから必要事項を入力し、送信ボタンを押してください。



※ご入力いただいた情報は本人確認および会員通信送付のためにのみ使用します。

現在、会員数269名のうち、77名が電子送付にご賛同いただいています！

エコ・アクション・ポイントとは？

環境省が推進する全国共通のポイントプログラムです。対象のエコアクション(環境にやさしい行動、サービスの利用等)を行うとアプリ上でポイントが付与され、貯めたポイントは各種ギフトカードや商品と交換することができます。

城陽市では、令和5年8月からエコ・アクション・ポイント事業を開始しています。



市ホームページ

アプリのダウンロードは以下から
シロクマのマークのアプリです！




iPhone など




Android

アプリをお持ちでない場合公式サイトからも会員登録ができます。
ホームページ▶ <https://www.eco-action.jp>

※アプリや登録方法に関するお問い合わせは、エコ・アクション・ポイント事務局まで
(☎0120-889-614 10:00-17:00/土・日・祝・年末年始休)

株式会社 城南工建 株式会社 東城陽ゴルフ倶楽部 株式会社 ミズホ

〒610-0113 京都府城陽市中芦原27番地の1 京都府城陽市寺田奥山1-48 マサツのない世の中へ。
TEL 0774-53-3939 FAX 0774-55-1172 TEL 0774-52-1161 砥石で、未来を磨いてゆく。

京都城陽ロータリークラブ、近畿砂利協同組合、サントリープロダクツ(株)宇治川工場、城陽金融会、城陽市、城陽商工会議所、星和電機(株)、(株)玉井開発、日本観光ゴルフ(株)城陽カントリー倶楽部、(株)平和堂アル・プラザ城陽、森澤博光 ※令和7年9月30日現在(五十音順・敬称略)

上記の団体・個人の方から賛助会費をいただきました。誠にありがとうございました。